

家庭系ごみ等詳細組成分析調査（令和 7 年度）について

1. 組成分析調査の概要

ごみ減量・リサイクルと適正処理に向けた施策の基礎資料とするため、ごみの組成分析調査を実施しました。

(1) 調査実施日

令和 7 年 10 月 20 日、10 月 21 日

(2) 調査対象

可燃ごみ（燃やせるごみ）	4 検体
不燃ごみ（燃やせないごみ）	1 検体
容器包装プラスチック	1 検体

(3) 分析場所

調布市クリーンセンター

(4) 組成分析

採取した検体を品目ごとに分類し、重量を計測しました。

なお、家庭系生ごみの分類については、環境省「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開袋調査手順書（令和 6 年 10 月版）」に準拠した調査を実施しました。

2. 詳細組成分析調査の結果

全体の調査結果は下表のとおりです。

表 1 令和 7 年度組成分析調査結果

大分類	中分類	小分類	燃やせる ごみ	燃やせない ごみ	容器包装 プラスチック
可燃物	食品ロス	食べ残し	6.1%		0.1%
		未利用食品(直接廃棄)	6.9%		
	調理くず		25.0%		0.3%
	その他 可燃物	紙おむつ類	3.5%		
		リサイクルできない紙類	21.5%	0.2%	1.4%
		布類(リサイクル不可能品)	1.6%	2.0%	
		草木類	3.3%	2.1%	0.1%
		ゴム・皮革類	0.6%	2.1%	0.2%
		その他可燃物	7.5%	3.7%	0.3%
可燃物小計		76.1%	10.1%	2.4%	
不燃物	容器包装非対象プラスチック		3.9%	18.8%	11.5%
	金属類		0.2%	12.0%	0.1%
	小型家電類		0.0%	11.9%	
	その他 不燃物	紙パック(アルミ付)	0.6%		0.3%
		その他不燃物	0.0%	40.4%	
	不燃物小計		4.7%	83.1%	11.9%
資源物	古紙	包装紙・紙袋・紙箱	4.8%	0.2%	0.5%
		その他雑がみ	2.5%	0.2%	0.0%
		その他古紙	3.1%		
	布類		0.8%		
	びん		0.0%	1.0%	
	カン		0.0%		
	ペットボトル		0.2%		1.7%
	資源物小計		11.4%	1.4%	2.2%
容器包装 プラス チック	フィルム・袋類		4.5%	0.2%	35.2%
	レジ袋		0.5%	0.1%	1.4%
	食品トレイ		0.1%		2.3%
	パック・カップ		0.9%	0.1%	30.1%
	その他ボトル		0.3%	0.5%	11.0%
	発泡緩衝材類		0.0%	0.0%	0.5%
	その他容器包装プラスチック		0.5%	2.6%	2.6%
	容器包装プラスチック小計		6.8%	3.5%	83.1%
有害物			0.0%	1.4%	
収集不適物(土・砂)					
指定ごみ袋			0.9%	0.6%	0.3%
合 計			100%	100%	100%

(注) 一部、住商混合地区の事業系ごみを含みます。

構成比(%)の合算値は四捨五入の関係上、100%にならないことがあります。

表中の「0.0」は表示されている桁数より小さい値がある場合を表しています。

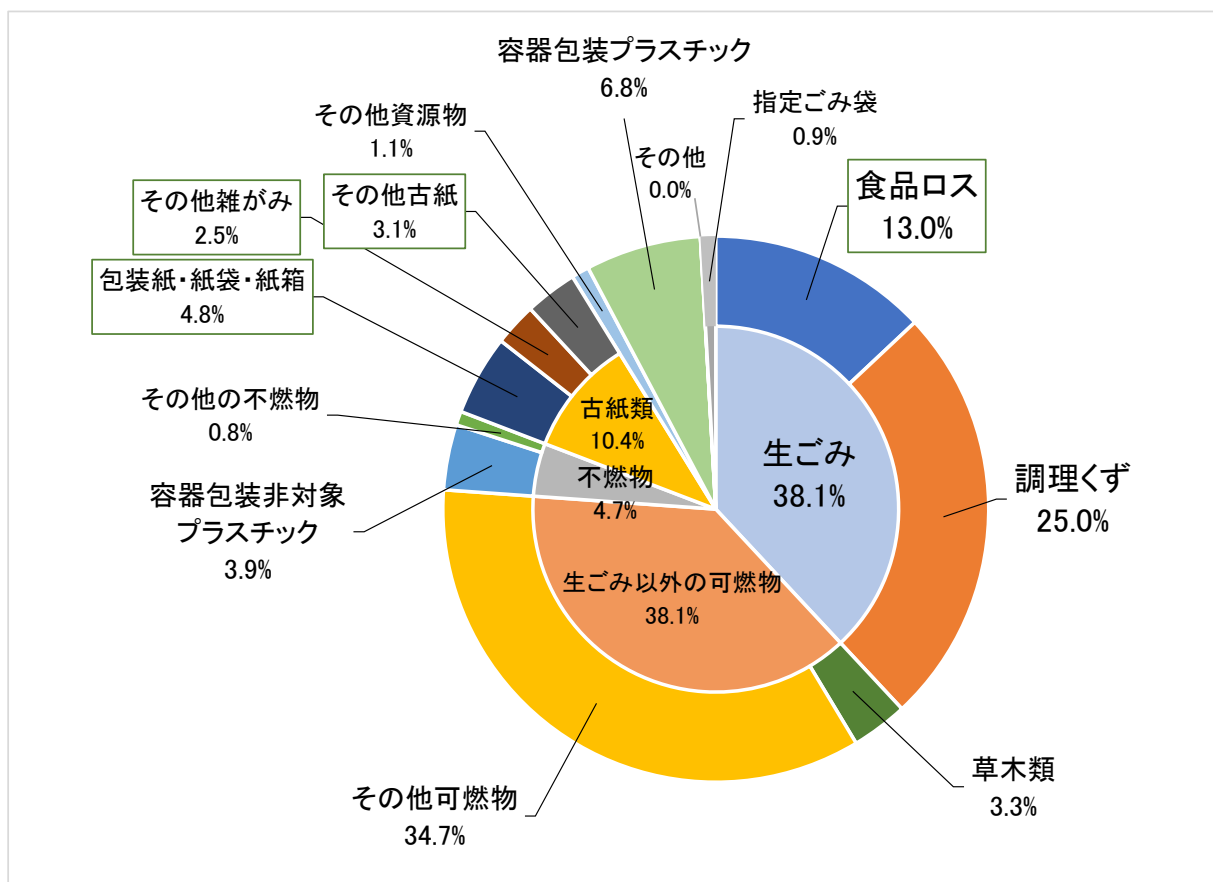
表中の空欄は全く排出されていなかったことを表しています。

正しい分類

(1) 燃やせるごみ（可燃ごみ）

- 燃やせるごみとして正しく分別されている割合は 77.0%（指定ごみ袋を含む）でした。
- 品目別には「生ごみ」が 38.1%と最も多く，その中で食べ残しや未利用食品といった「食品ロス」が 13.0%となっています。
- 資源化可能な古紙類の割合は 10.4%です。その内，雑がみ類は 7.3%でした（「包装紙・紙袋・紙箱」4.8%と「その他雑がみ」2.5%の合計）。

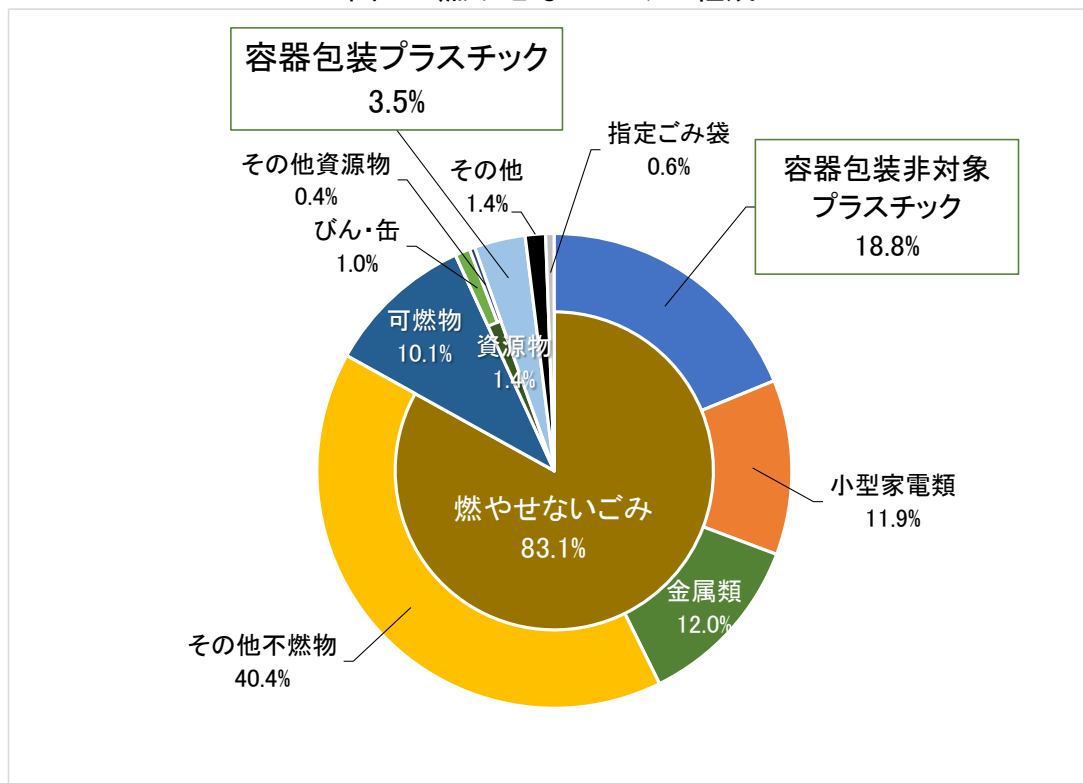
図 1 家庭系燃やせるごみの組成



(2) 燃やせないごみ（不燃ごみ）

- 燃やせないごみとして正しく分別されている割合は 83.7%でした。
- 正しく分別排出されているものの中で最も多いのは「その他不燃物」40.4%でした。内容は主に陶磁器やリサイクルできないガラスです。
- 分別が正しくないものの 16.3%の内，10.1%は、ゴム・皮革類などの可燃物でした。

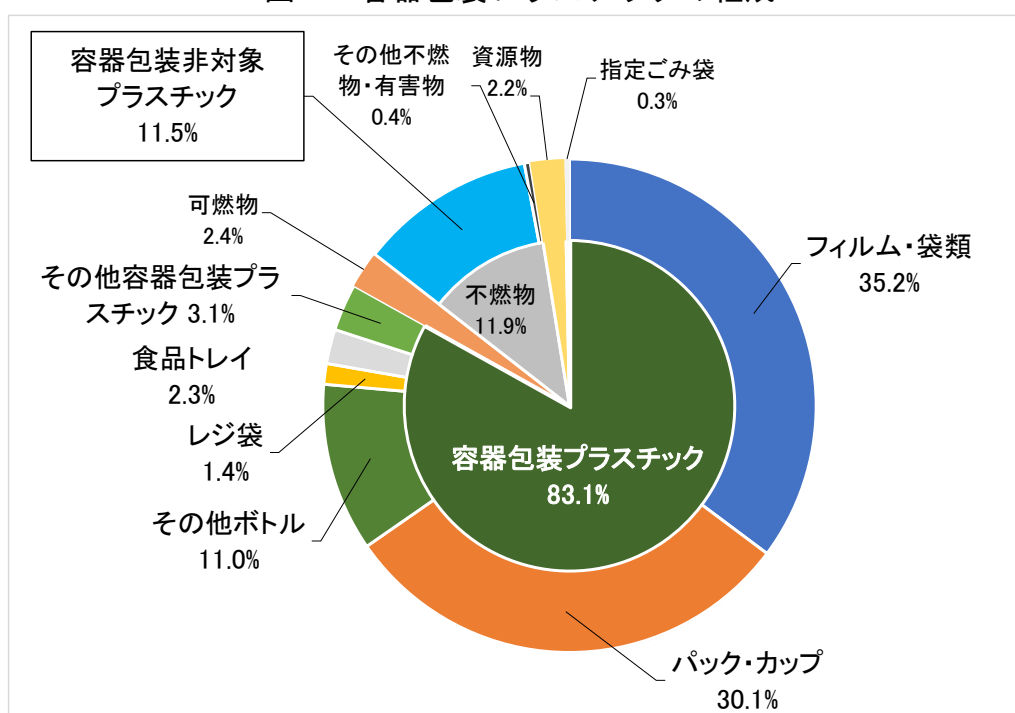
図2 燃やせないごみの組成



(3) 容器包装プラスチック

- 容器包装プラスチックとして正しく分別されているものの割合は 83.4% でした（指定ごみ袋を含む）。
- 分別が正しくないものの 16.7%の内、最も多いのは「容器包装非対象プラスチック」（製品プラスチック）で 11.5%でした。

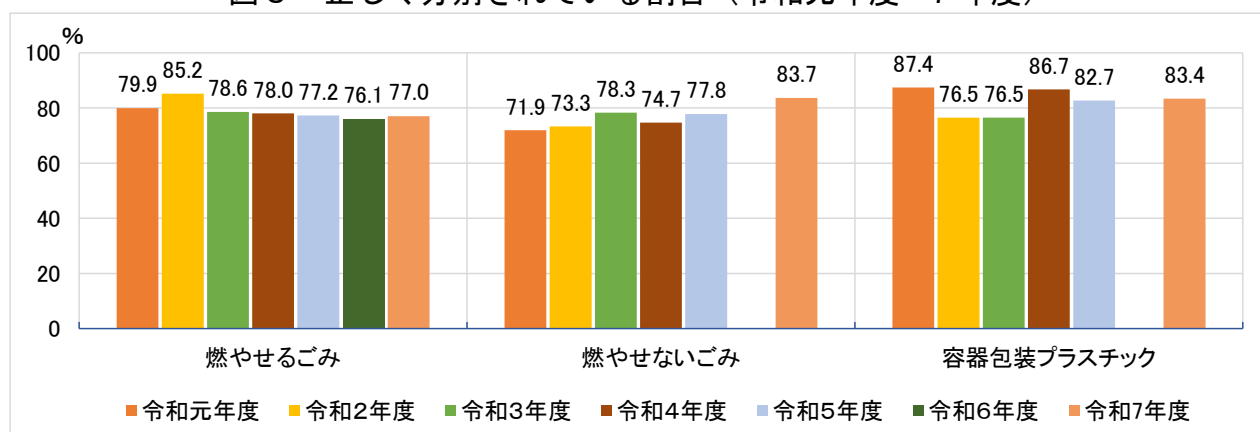
図3 容器包装プラスチックの組成



3. 過去の調査との比較

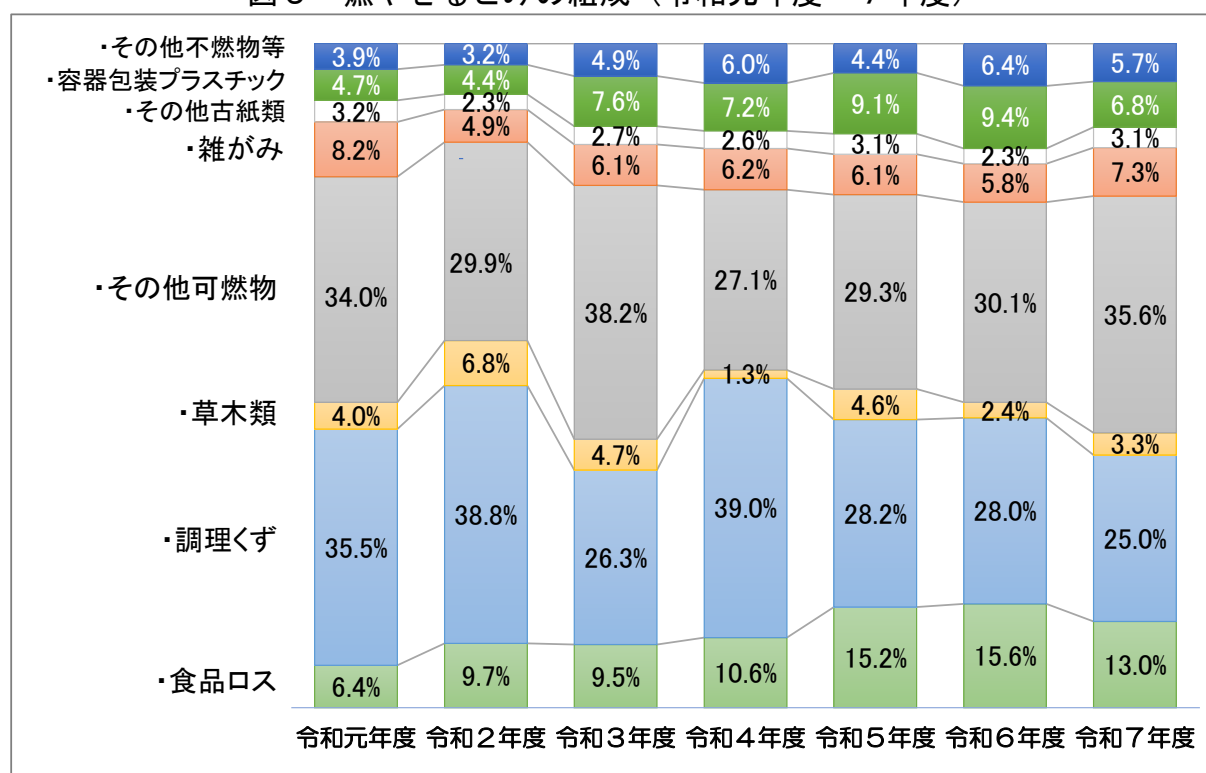
- 燃やせるごみが正しく分別されている割合は、前年度と比べ 0.9 ポイント上昇しました。燃やせないごみ・容器包装プラスチックは令和 6 年度は調査対象外でした。令和 5 年度と比較すると燃やせないごみは 5.9 ポイント、容器包装プラスチックは 0.7 ポイント上昇しています。

図3 正しく分別されている割合（令和元年度～7年度）



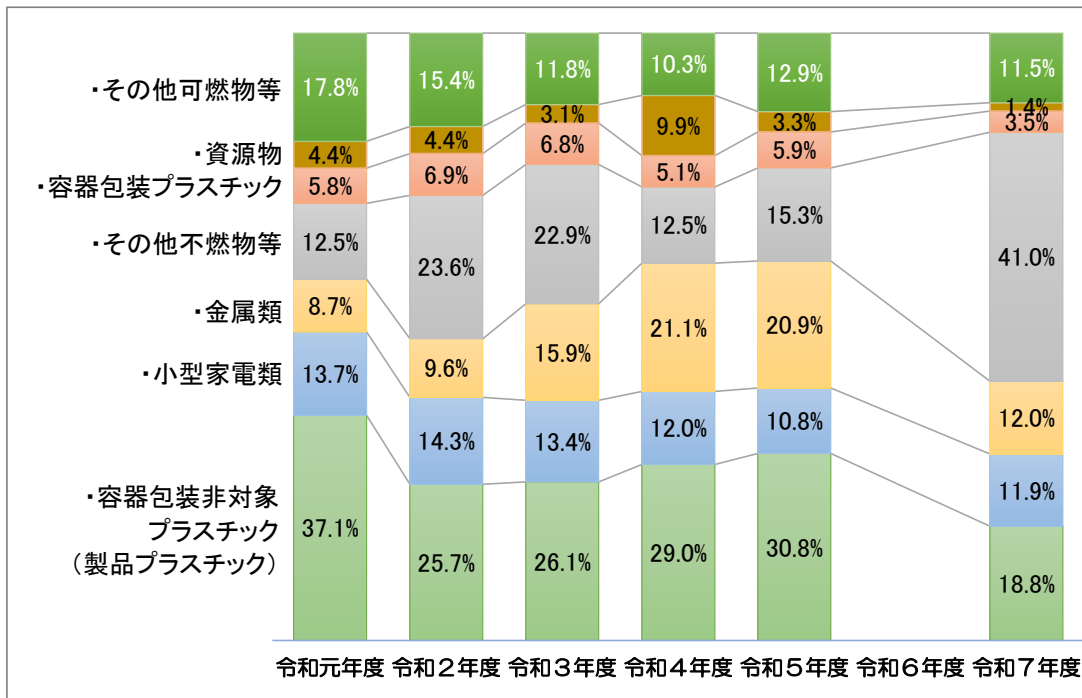
- 燃やせるごみの組成は、「食品ロス」比率が前年度よりも 2.6 ポイント低下、調理くずも 3.0 ポイント低下しており、令和 4 年度以降「生ごみ」（食品ロス＋調理くず）比率が低下傾向にあります。

図5 燃やせるごみの組成（令和元年度～7年度）



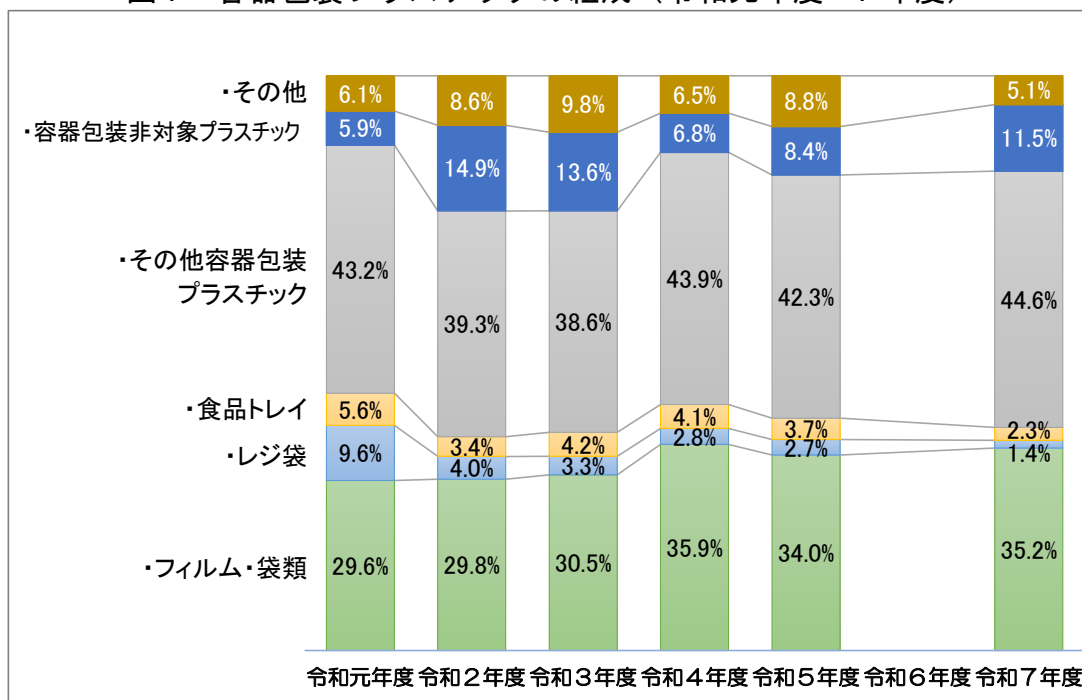
- 燃やせないごみの組成は、陶磁器や資源化できないガラスを主体とする「その他不燃物等」の比率が、過去データと比較して大幅に増えています。一方、資源物の混入は1.4%と過去最低水準となっています。

図6 燃やせないごみの組成（令和元年度～7年度）



- 令和7年度の容器包装プラスチックの組成は、食品トレイやレジ袋の比率が過去調査と比較して低くなっています。また、「その他」（可燃ごみや不燃ごみ）の比率は5.1%と、過去と比較して最も低い比率となっています。

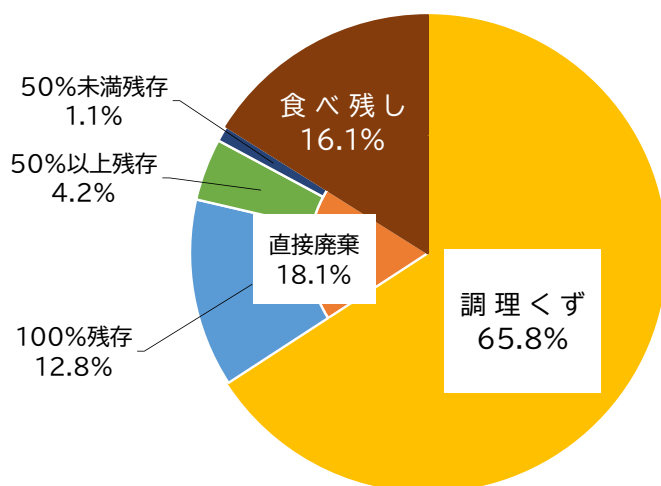
図7 容器包装プラスチックの組成（令和元年度～7年度）



4. 家庭系食品ロスの内訳

- 表1の家庭系の生ごみについては、内訳を詳細に調べています。図6のように、生ごみの内訳は、調理くず 65.8%、「直接廃棄（未利用食品）」18.1%、「食べ残し」16.1%となっています。

図6 家庭系燃やせるごみ中の生ごみの内訳



- さらに未利用食品については、容器包装の印刷やラベルなどから「消費期限」「賞味期限」別の内訳についても調査しました。
- 「賞味期限」の表示があるものは52.2%あり、賞味期限から1ヶ月以上経っているものが最も多く24.1%、期限前に廃棄されたものが12.1%ありました。消費期限の記載があるものは6.7%で、その中に消費期限前の廃棄が0.6%ありました。

図7 「未利用食品」の内訳

